

母親の養育態度に関する研究 6

— 大学生の被養育経験における父親と母親の関わりの比較 —

○ 田中千穂 (代々木の森相談センター)

三浦香苗 (昭和女子大学)

目的

これまで、大学生とその母親・祖母に被養育経験と自身の養育行動について調査を行ってきた。その結果、各世代で被養育経験の特徴に違いがあること、また、母親・祖母の被養育経験と自身の養育経験に関する意識に違いのあることが明らかになった。本研究では、養育者として対象を父親にも広げ、大学生の父親と母親に対する被養育経験について調査を行い、父親と母親の養育態度の相違について、比較検討する。

方法

調査対象者：私立 (97 名)・公立 (131 名) の 2 つの大学の学生 228 名 (男子 72 名, 女子 156 名)

調査時期：2013 年 4 月と 6 月

調査内容：フェイスシートの記入の後、

1. 両親のしつけについての 5 項目について 4 段階評定で回答を求めた (表 1)。
2. 父親・母親のそれぞれの養育態度について大学生が児童期の頃経験した親の養育態度についての尺度 (2011, 田中・三浦) 158 項目のうち 24 項目 (表 2) について (当てはまる・よくされていた～全然当てはまらない・全然されていない) の 5 段階評定で求めた。

結果

1. 両親のしつけについての分析

①両親のしつけに関する 1)～5) の 5 項目について平均値と標準偏差の結果を求めた (表 1)。

両親のしつけに関して各項目において最も多かったのは 1) 「②どちらかといえば母親」 (49.3%), 2) 「②かなり協力的」 (55.3%), 3) 「③あまり変わらない」 (40.4%), 4) 「②相談しつつ主に母親」 (55.7%), 5) 「②かなり関心があつた」 (43.4%) であった。

②因子分析を最尤法・Kaiser の正規化を伴うプロマックス法で実施した。第 1 因子 {父母の協力} と {母親への依存} の 2 因子が抽出された。

表 1 両親のしつけについて質問項目とその平均値

質問	平均	SD
1) しつけは主として誰が行っていたか	1.75	0.695
2) しつけで両親は協力していたか	2.07	0.711
3) 父親と母親とではしつけが異なつたか	2.70	0.798
4) 父親は子どものしつけに関与していたか	2.26	0.707
5) 父親はしつけに関心があつたか	2.27	0.779

2. 父親と母親の養育態度についての比較

①父親と母親の養育態度質問項目 24 項目と父親・母親を合わせた平均値と標準偏差を下記に示す (表 2)。

②それぞれを因子分析の対象とし、最尤法・Kaiser の正規化を伴うプロマックス法で因子分析を実施した結果、父親は第 1 因子 {関心}, 母親は第 1 因子 {受容的関わり} 第 2 因子 {責任} が抽出された。

表 2 親の養育態度項目と平均

質問項目	平均	SD
1 朝起きた時や寝る前の挨拶をするように言われた	3.34	1.386
2 洗濯物を干したり片づけたりさせられた	2.29	1.256
3 元気がない時にはなぐさめてくれた	3.35	1.228
4 名所などに連れて行ってくれた	4.16	1.090
5 自分の分担をきちんとするように言われた	3.25	1.200
6 何でも思ったことを話せた	3.12	1.340
7 食事のマナーを注意された	3.71	1.219
8 おじさんやおばさんの仕事について話してくれた	2.88	1.289
9 仲直りをした後はそれをこたわらないように言われた	2.77	1.243
10 つらくても我慢するように言われた	2.79	1.182
11 自分の持ち物の管理などに責任を持たされた	3.63	2.439
12 ひざに座らせたり、ぎゅっと抱きしめてくれた	3.12	1.380
13 図書館や博物館などに連れて行ってくれた	3.27	1.385
14 貧しい国の子どもの話などを聞かせてくれた	2.53	1.210
15 いつも笑顔でいるように言われた	2.76	1.206
16 道草をしないように注意された	2.52	1.270
17 お正月などには親戚が集まった	3.90	1.384
18 元気で明るく振舞うようにいわれた	3.13	1.177
19 豆まきや七夕などの行事を一緒にしてくれた	3.76	1.328
20 小学生になったらしてもいいことが増えた	3.13	1.191
21 友達を大切にするように言われた	3.81	1.232
22 方々に一緒に出かけけてくれた	3.95	1.241
23 自分で学校の準備をするようにさせられた	3.59	1.331
24 私のことを第一に考えてくれた	3.91	1.262

考察

しつけにおいて父親と母親は協力し合い、価値観もかなり一致して行っている傾向がみられたが、どちらかといえば母親が主になり行っており、父親と母親ではしつけの性質に違いがあることが想定できる結果であった。結果に男女の差はみられなかった。